七夕（たなばた）の日のマチネコンサート 徳永二男がお贈りする プログラム

2020 年 7 月 7 日（火）たましん RISURU ホール　大ホール

＜曲目及び解説＞

ガブリエル・フォーレ(1845-1924)：エレジー　ハ短調　op.24

フォーレは、フランスの作曲家。この曲は彼がチェロのために書いた最初の作品であり、哀愁を含んで朗々と歌われる旋律は、チェロの音色にとても合っている。

ダーヴィト・ポッパー(1843-1913)：ハンガリー狂詩曲　ニ長調　op.68

ポッパーは、オーストリア＝ハンガリー二重帝国の作曲家、優れたチェロ奏者であり、24 歳でウィーン宮廷歌劇場管弦楽団の首席チェロ奏者に就任。この曲は 7 つのハンガリー民謡を用いており、「リスト：ハンガリー狂詩曲第 6 番」と同じ旋律が聞かれる。

カミーユ・サン=サーンス(1835-1921)：白鳥

サン=サーンスは、フランスの作曲家、ピアニスト。この曲は管弦楽組曲「動物の謝肉祭」で、彼が友人との私的な会で演奏するために書かれた 14 曲の狂想曲。第 13 曲目にあたる「白鳥」は、特に有名でチェロとピアノ用の小品に直された。

＊＊＊休憩 15 分＊＊＊

カミーユ・サン=サーンス：序奏とロンド・カプリツィオーソ　イ短調　op.28

この曲はヴァイオリニスト名手、サラサーテに貢献された。哀愁を帯びた序奏とスペイン風の独特な主題を持つロンド。ヴァイオリンの華麗な技巧と音楽性が見事に結晶した逸品。

ピョートル・チャイコフスキー(1840-1893)：ワルツ・スケルツォ　ハ長調　op.34

チャイコフスキーは、ロシアの偉大な作曲家。特に交響曲、バレエ音楽などが有名。この曲は、彼が 37 歳のときに作曲したヴァイオリンと管弦楽のための作品。

パブロ・サラサーテ(1844-1908)：ツィゴイネルワイゼン　op.20

サラサーテは、スペインの作曲家、ヴァイオリンの名手として国際的に活躍した。この曲は彼の代表作であり、ヴァイオリンの超絶技巧を駆使した傑作として大変人気の高い曲である。ハンガリー・ジプシーの旋律を使用している。ツィゴイネル（Zigeuner・独）はジプシー、ワイゼン（weisen・独）は歌・旋律の意。

＊＊＊休憩 15 分＊＊＊

フェリックス・メンデルスゾーン(1809-1847)：ピアノ三重奏曲第 1 番　ニ短調　op.49

メンデルスゾーンは、ドイツの作曲家。この曲は彼が 30 歳のときの作品。シューマンが「ベートーヴェン以後に書かれた最も偉大なピアノ三重奏曲」と評し、美しい旋律はメンデルスゾーンならではの気品に富んだ情感に溢れている。ピアノ、ヴァイオリン、チェロの素晴らしさを十分に楽しめる名曲である

第 1 楽章　アレグロ・モルト・アジタート　3/4 拍子　ニ短調
第 2 楽章　アンダンテ・コン・モート・トランクィロ　4/4 拍子　変ロ長調
第 3 楽章　スケルツォ：レッジェーロ・エ・ヴィヴァーチェ　6/8 拍子　二長調
第 4 楽章　フィナーレ：アレグロ・アッサイ・アパッショナート　4/4 拍子　ニ短調－二長調

≪出演者プロフィール≫

徳永　二男(ヴァイオリン)Tsugio Tokunaga，violin

人気、実力ともに日本を代表する音楽家。ヴァイオリニストの父茂および鷲見三郎氏に師事。桐朋学園にて、齋藤秀雄氏に師事。1966年、当時日本楽壇史上最年少のコンサートマスターとして東京交響楽団に入団。
68年、文化庁在外派遣研修生としてベルリンへ留学、ミシェル･シュヴァルベ氏に師事。
76年、NHK交響楽団のコンサートマスターに就任。その後首席第一コンサートマスターを経て、ソロ･コンサートマスターの重責を担い、長年NHK交響楽団の“顔”として抜群の知名度と人気を誇る。
NHK交響楽団在籍時代よりヨーロッパ、アメリカ各地から招かれ、とりわけ、ケルンでの現代音楽祭、ベルリンの日独センター柿落とし公演での、ヴォルフガング･サヴァリッシュ氏との室内楽コンサート、ニューヨークのカーネギーホールでの室内楽コンサートに出演して絶賛を博した。
94年にNHK交響楽団を退団し、ソロ、室内楽に専念。
92年より鎌倉芸術館ゾリステンを主宰し、95年から2013年までJTアートホール室内楽シリーズの音楽監督を、96年からは宮崎国際音楽祭の総合プロデューサーを経て2011年からは音楽監督を務めるなど、日本音楽界の中心的立場を確固たるものとしている。
ソリストとしても、モントリオール交響楽団やイギリス室内管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団など、国内外の主要オーケストラからたびたび招かれている。
08年から毎年、東京でリサイタル･シリーズを行う一方で、トーク･コンサート、タンゴ･コンサートなど幅広い演奏会を全国で行っている。
15年は、ティボール･ヴァルガ・シオン国際ヴァイオリンコンクールの審査員を務めた。
16年は、楽壇生活50周年を迎え、多くの記念公演を行い、文化庁長官表彰も受ける。
近年は指揮者として、東京フィル、広島響、宮崎国際音楽祭管弦楽団などと共演。18年には、ギドン･クレーメルをソリストに迎え、クレメラータ･バルチカと広響の合同オーケストラを指揮して好評を博した。
CDは、ブラームスのヴァイオリン・ソナタ全集、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全集や、パガニーニのカプリースなどをリリースしており、最新盤は「徳永二男プレイズ R.シュトラウス ヴァイオリン･ソナタ」（オクタヴィア・レコード)。桐朋学園大学特任教授。

毛利　伯郎(チェロ)Hakuro Mouri，cello

10 才よりチェロを始める。上原与四郎、青木十良、ハービー・シャピロの各氏に師事。
室内楽をロバート・マン、サミュエル・ローズフィリックス・ガリミアの各氏に師事。
ジュリアード在学中より、ニューヨークを中心として演奏活動を開始。各地のオーケストラと共演。ワシントンD.C.ケネディーセンターのシアター・チェンバー・プレイヤーズのメンバーとして、又、シークリフ・チェンバー・プレイヤーズ、カンティレナ・ピアノカルテットなど数多くのグループのメンバーとしてコンサート、レコーディングなど多彩な活動をするかたわら、アメリカ、ヨーロッパ各地の音楽祭に数多く出演。その間、ニューヨーク、フィラデルフィア、インディアナの各地で後進の指導にも意欲的に当たる。
1985 年、帰国。読売日本交響楽団ソロチェリストに就任。その後、東京ピアノ・トリオ、桐五重奏団、ATM アンサンブル、水戸カルテット、ナーダ、その他多くのシリーズのメンバーやゲストとして出演、好評を博す。
桐朋学園大学教授。

坂野伊都子(ピアノ)Itsuko Sakano，piano

京都府出身。国立音楽大学ピアノ科を首席で卒業、武岡賞受賞。NTT ドコモ奨学生に選ばれる。桃華楽堂新人演奏会にて御前演奏を行う。桐朋学園大学ソリストディプロマコースにて研鑽を積む。
第 69 回日本音楽コンクール第 2 位、第 7 回「Trio di Trieste」国際室内楽コンクール(イタリア)デュオ最高位受賞等、数々の国内外のコンクールで受賞。
また、室内楽、伴奏でも活動を広げ、NHK－FM、宮崎国際音楽祭、軽井沢国際音楽祭等、様々な室内楽プロジェクトにも積極的に参加。

インターネット上でのアンケートを開始しました。
お手持ちのスマートフォン等よりQRコードを読み取り、ご回答いただけます。
ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。